

吉備津神社



拝殿(国宝)



本殿(国宝)

重厚感のあるこの建物は、室町時代に再建され、本殿と拝殿が連結した全国でも唯一の珍しい造りで「比翼入母屋造り(ひよくいりもやぶくさ)」といわれ、広さは、京都の八坂神社につぐ大きさで出雲大社の約2倍以上の大建築です。もう一つ全国的に珍しい神事として、春には五穀豊穣を祈願し、秋には収穫に感謝するという「七十五膳据(しちじゅうごせんすえ)神事」が行われます。また、お正月には多くの初詣客で賑わいます。

- 祭神
吉備津彦命ほか
- 創建
不明
- ご利益等
健康長寿
学業成就
商売繁盛
交通安全ほか



吉備津のこまいぬ

土ひねりで作られた「いぬ」と「とり」の形状のお守りで、古くより土俗芸品として人気の高いお土産です。
「盗難災難よけ」

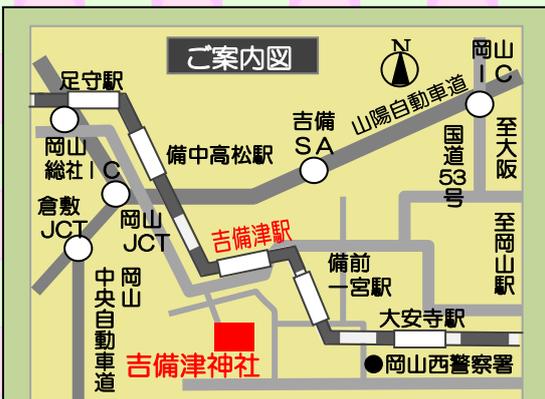


南随神門
(国指定重要文化財)



坂道を利用した
総延長360m
もの回廊

商売繁盛
えびす宮



交通/岡山自動車道・岡山総社ICから車で15分
JR吉備線「吉備津駅」から徒歩10分

御竈殿

(国指定重要文化財)



本殿の南側に位置する御竈殿は、江戸時代初期に再建され、一重入母屋造り、本瓦葺の建物で、釜の鳴る音で占う「鳴釜神事(釜占い)」が行われる場所として知られています。

- ・ 良い知らせ・・・釜が爽やかに鳴ったとき。
- ・ 不吉な知らせ・・・釜が鳴らなかったり、低調に鳴ったとき。